－最近の成田空港から－

岩田公宏

オープンスカイで住民被害はそっちのけ

成田空港は容量が拡大され、年間発着回数20万回を限度としていましたが、昨年10月13日の四者協議会で最大「年間発着回数を30万回」にする事を合意しました。

「30万回」が現実のものになりますと、飛行コース直下の住民にとっては非人間的な環境になります。

滑走路に近いところは90デシベル以上、利根川から九十九里浜までは70デシベル以上の騒音が、平均二・五分に一回降り注ぐことになります。ラッシュ時間帯にはこの間隔が一・七分程度になます。　この騒音が朝の六時から夜の11時まで降り注ぐのです。

30万回は経済界の要求

現在の成田空港発着回数から見れば、「30万回」は全く必要のない、非現実的な数字です。

この強引な容量拡大は、経済界や政府が至上命題としている「航空の自由化（オープンスカイ）」導入のためでしかありません。

千葉県も基本的にはこの方針に追随しています。

千葉県は「30万回」を地元に飲ませるために、「成田空港の容量拡大に伴う経済波及効果調査」を行い、「30万回」時の成田空港周辺9市町への経済効果は「平成19年に比べて約９６０４億円、千葉県全体では同１兆１３８８億円ある」、と非現実的な「バラ色の夢」を描いて見せました。

森田氏が知事に就任した後の、平成21年10月12日に当時の前原国土交通大臣は「成田は国際線、羽田は国内線の基幹空港とする分離原則は廃止する」と明言しました。

この発言に成田空港周辺自治体は大騒ぎになりました。２日後の14日に森田知事は前原大臣と会談しましたが、大臣の言葉に抗議するでもなく『成田空港は国際線の基幹空港だ』との言葉をいただいた。」と述べるにとどまりました。

周辺自治体の首長はこの態度に不信感を示しましたが、この後、「成田空港が地盤沈下して、貨物空港になる」などの脅しに右往左往しました。

森田知事は東京から衆議院議員に当選したときに、公約として「羽田空港の国際化」を掲げていました。

騒音被害軽減のための約束を反故に

今回の「30万回」合意と同時に「飛行回数を増やすため」として、騒音を軽減するための大切な約束が反故にされてしまいました。

成田空港建設当時知事であった友納氏が県民の騒音被害を心配して、国に約束させた「離着陸時には、利根川から九十九里までを直進降下・直進上昇とする」との約束も、「南側離陸の混雑時には６０００フィートを超えた時点で旋回する事もある」と反故にされ、「離発着時以外に県内を通過する時は高度を６０００フィート以上とする」という約束も、旭市や匝瑳市や香取市などでは「６０００フィート以下でも飛行できる」と反故にされましたが、千葉県はすんなりと受け入れてしまいました。

そして、私達が繰り返し要望している、騒音が住民に与える健康影響に関する調査を、県は「それは国がやるべき事」と取り上げようとはしません。

欧州委員会が委託した調査によりますと、航空機騒音にさらされている人々の心臓発作や脳卒中による死亡率は、そうでない人に比べて約50％高くなるそうです。また、世界保健機関は「騒音により世界で年間約20万人が死亡している」としていますが、千葉県は全く対応しようとしません。

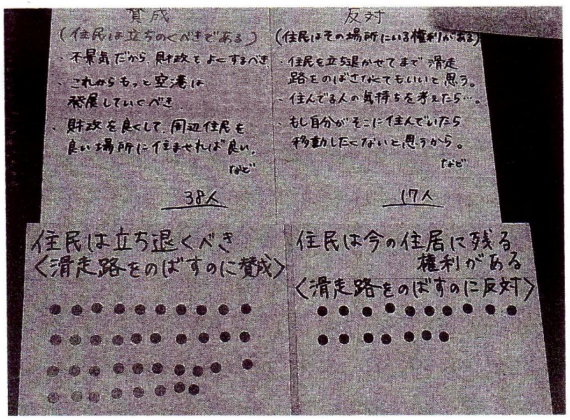
運用時間延長は人体実験

さらに、今回の「30万回」騒動の中で、騒音のもっとも激しい芝山町の町長が「空港の運用時間を前後1時間ずつ延長して利便性を高めたらどうか。」と提案して、経済界を喜ばせました。

これが現実になりますと、住民が静かに眠れる時間はたったの五時間になってしまいます。

ある大学の先生は私宛のメールで「調査結果に基づけば、滑走路運用時間の延長は、かつて、チッソが行った放流地点変更の『人体実験』と同様に思われます。」と指摘しています。

私は２００９年２月に、課題研究で「成田空港の滑走路をのばすことについて」と言うアンケートを、千葉駅前と成田駅前で行った４人グループの千葉中一年生に招かれ、成田空港の問題を話しました。



アンケート結果

この４人の中学生に「君たちはどう思う」と聞いたところ、４人とも「経済が発展するなら、延ばすべきと思う」と答えていました。

残念ながら、騒音に苦しんでいる住民の苦労は頭では分かっていても、「経済最優先」が先行しています。

羽田空港国際化で千葉市民も騒音増加に悲鳴

一方、羽田空港国際化で県内の飛行コースが変わり、（これを認めたのも森田知事ですが）千葉市や君津市の住民が激しくなった騒音に怒っている実態もあります。ネット上の「蘇我生活辞典＝蘇我上空の飛行機」には「うるさくなった」との書き込みが溢れており、「私達は『青空裁判を闘った』経験を持つ」との書き込みもあります。

経済成長優先で、公害垂れ流しの再現か

このように、千葉県の航空機騒音被害に対する姿勢は「成田空港の発展に障害となる事は一切取り上げない。騒音対策は国の基準によるもので十分」としています。森田知事は挙げ句の果てに「成田空港周辺にカジノを！」と叫んでいます。

停滞する景気によって、「経済成長」を最優先にし、公害の被害を顧みない風潮がまん延しようとしています。このまま推移すると、かつての「高度成長期」にあった、「公害垂れ流し」時代に逆戻りするのではないでしょうか。

（成田空港から郷土とくらしを守る会）